

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2年後期	2	2	教職必修
担当教員			
原田 唯司			
添付ファイル			

講義概要	学校における教育相談に関する基本的な考え方や知識・技法を獲得し、子どもの成長発達を支え、多様な心理的課題を抱えた児童生徒に寄り添い、支援する教師としてふさわしい教育相談力量の獲得を目指す。そのために、児童生徒の「問題」行動の見方を問い直し、当事者である児童生徒の「困難さ」を受け止め、理解しようとする姿勢の基礎をなす考え方や視点、及び不登校・いじめ・発達障害など教育相談の対象となる児童生徒の発達上の困難さの発生メカニズムや教師としての対応のあり方を学ぶ。 本授業では、教育相談に関する重要概念や考え方に関する講述のほか、アクティブラーニングの手法を取り入れて、資料を読み解いたり、他者との情報交流・討論を通して自身の見解を整理し、表現する力を身に付けることを目指す。		
授業計画	1	本授業のねらいと進め方 コースパケットの活用を通して、①教師に求められる教育相談力量の形成と、②資料を読み解く力や自身の見解をまとめ、表現する力の育成が授業の主たる目標であることを説明する。また、受講生集団が「学びのコミュニティ」に発展するよう、毎授業時間冒頭の「セルフ・プレゼンテーション」の実施、小集団討議での積極的発言の奨励、進行役や発表役の経験付与などの手立てを組み込むことを伝える。その上で、シラバスの内容やコースパケットの構成及びコースデザインを説明する。 準備学習：1)「教育相談シラバス」と「コースパケット目次」、「コースデザイン」をあらかじめ読み、本授業の全体像を理解しておく。 2)『生徒指導提要(改訂版)』のダウンロードを行う。 3)セルフプレゼンテーションの内容を考える。 課題：「子どもの成長発達を支え、多様な心理的課題を抱えた児童生徒に寄り添う教師」の具体的な姿を自分なりに考察し、コースパケットに書き込む (AL①)。	
	2	「生徒指導上の諸課題」の現状と特徴 『令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要』を手がかりとして、教育相談の対象となる生徒指導上の諸課題の現状と特徴を明らかにする。 準備学習：1)コースパケット内の文科省資料のうち【調査結果のポイント】を読み、調査結果の概要を把握する。	
	3	教育相談に取り組む教師・学校の基本的な姿勢：(1)教員役割の転換 『生徒指導提要(改訂版)』(2022)を手がかりとして、適切な教育相談を遂行するために求められる教師・学校の基本姿勢を学ぶ。とくに、改訂版の最大の特徴である「教員役割の変化」の背景について紹介する。 準備学習：1)『生徒指導提要(改訂版)』の「まえがき」と「目次」及び「1.1.3生徒指導の連関性(2)生徒指導と教育相談(p16-17)」を読み、教育相談が対象とする生徒指導上の諸課題を理解する。 2)コースパケットのppt資料：「2. 教育相談に取り組む教師・学校の基本的な姿勢」を読む。 課題：『生徒指導提要(改訂版)』で「教員の役割の変化」がなぜ強調されたのかを考察し、コースパケットにまとめる (AL①)。	
	4	教育相談に取り組む教師・学校の基本的な姿勢：(2)児童生徒の多様な背景の重視、(3)児童生徒の権利の明示、(4)チーム学校体制の構築 『生徒指導提要(改訂版)』(2022)の特徴である「児童生徒の対応な背景の重視」、「児童生徒の権利の明示」及び、「チーム学校体制の構築」の内容と意義を説明する。 準備学習：1)「2. 教育相談に取り組む教師・学校の基本的な姿勢」を読む。 2)これまでの学校教育体験の中からどのような教師が児童生徒からの信頼の対象であったかを振り返る。 課題：『生徒指導提要(改訂版)』の特徴を理解することを踏まえ、どのような教師像が今後求められるのかについて小グループで意見交換を行い、その結果を板書発表する (AL②)。	
	5	「問題行動」の見方を変えてみる：(1)基本となる見方・考え方 「問題」行動は必要行動という視点から、「問題」を抱えている児童生徒の「困難さ」や「うまく行かなさ」に着目し、「困っているのは本人自身」という見方や原因や背景要因と結果を1対1対応では見ない考え方を学ぶ。 準備学習：1)これまでの学校生活の中で他者への暴力など、いわゆる「問題」行動を見たり、聞いたことのある体験を振り返る。	
	6	「問題行動」の見方を変えてみる：(2)見方を変えてみるとは？ 「家族の言い争い場面」を「システム」という見方から解釈し、「悪循環」「見えないルール」「自動化」「偽解決」といったシステムの特徴を知る。また、あえて見方を変えてみることによって異なった印象が生じることや「問題は見る人の見え方によってつくられる」ことを知る。 準備学習：コースパケット内の資料（不登校生徒と家族の言い争い場面）を読み、この家族のどこに問題があるのかを考える。	
	7	「問題行動」の見方を変えてみる：(3)システムという視点 「悪循環」「見えないルール」「自動化」「偽解決」といったシステム論の重要概念について知るとともに、「問題は見る人の見え方によってつくられる」ことに気づく。さらに、システム論の視点から児童生徒の困難課題をとらえることが、適切な教育相談を進めるカギとなることを学ぶ。 準備学習：1)「悪循環」「見えないルール」「自動化」「偽解決」といったシステム論の重要概念の意味を調べる。	

8	「問題行動」の見方を変えてみる：(3) システムという視点 「悪循環」「見えないルール」「自動化」「偽解決」といったシステム論の重要概念について知るとともに、「問題は見る人の見え方によってつくられる」ことに気づく。さらに、システム論の視点から児童生徒の困難課題をとらえることが、適切な教育相談を進めるカギとなることを学ぶ。 準備学習：1)「悪循環」「見えないルール」「自動化」「偽解決」といったシステム論の重要概念の意味を調べる。 9 不登校の理解と対応(1)：事例の検討から見えて来るもの 不登校の事例を検討し、「悪循環するシステム」や「不登校の直接的な原因と維持要因の違い」という視点から不登校児童生徒が抱える困難さを理解する。 準備学習：1)「ケース教材：明確な理由が見当たらないまま不登校状態が続いている中3女子・サヤカ」をじっくり読む。 2)なぜサヤカは再び不登校になったのか、影響を与えている要因について考える。 課題：サヤカを取り巻く悪循環システムがどのように成立しているかについて考察し、この悪循環システムを弱めるためには何が必要かを判断する (AL⑥)。 10 不登校の理解と対応(2)：不登校のプロセスモデル 「不登校のプロセスモデル」を解説し、不登校がどのような背景要因と経過の中で出現するのか、どのような対応が望ましいのかについて解説する。 準備学習：1)コースパケット内資料「(2)不登校のプロセスモデル」以下を読む。 2)自身の学校教育体験を振り返り、実際に遭遇した不登校児童生徒に関する情報を整理し、なぜ不登校になったのかを考える。 課題：対人関係面の不調が不登校につながるメカニズムについて、小グループで話し合い、その結果を板書発表する (AL②)。 11 いじめの理解と対応(1)：定義の変遷と関係法規の整備 いじめの定義の変遷をたどりながら、いじめ防止に向けた国(文部科学省)の考え方や方針を理解する。 準備学習：1)コースパケット内資料①「いじめの定義の変遷」を読む。 2)自身の学校教育体験を振り返り、実際に見聞きたいじめの事例について、教師がどんな対応を行ったのかを振り返る。 課題：いじめの定義の変遷について、どのような方向への変化が認められるのか、さらにそのことが持っている意味について小グループで話し合い、その結果を板書発表する (AL②)。 12 いじめの理解と対応(2)：いじめ重大事態 いじめ重大事態の解説を行い、法的根拠や定義、学校及び教職員は何をどのように取り組む必要があるのか、事例を参考しながら理解する。 準備学習：1)コースパケット内資料③～⑦を読む。 2)コースパケット資料「5. いじめの理解と対応」のうち、4～6ページを読む。 課題：なぜ重大事態が発生するのか、その背景について小グループで話し合い、その結果を板書発表する (AL②)。 13 いじめの理解と対応(3)：初動対応の重要性 いじめに対する初動対応の重要性について理解するとともに、学校が迅速にかつ適切な初動対応を行うために必要な条件とは何かを考える。 準備学習：コースパケット資料「5. いじめの理解と対応」のうち、7ページ以降を読む。 課題：いじめ重大事態の発生を防止するために必要な教師の知識やスキルについて小グループで話し合い、その結果を板書発表する (AL②)。 14 発達障がい(神経発達症)の理解と対応(1)：定義及び発生メカニズム、分類について 発達障がい(神経発達症)の定義や発生メカニズム、特徴的な認知・行動について解説する。 準備学習：1)コースパケット資料「6. 発達障害(神経発達症)の理解と対応」のうち、1～3ページを読む。 2)定義や分類を踏まえ、これまでの学校生活の中で発達障害的な兆候を示す児童生徒がいたかどうか、教師はどんな対応をしていたのかを振り返る。 課題：発達障害的な兆候を示す児童生徒に対して、教師がどのように理解し、どのような対応を行うことが必要であるのかについて小グループで話し合い、その結果について板書発表を行う (AL②)。 15 発達障がい(神経発達症)の理解と対応(2)：教師・学校に求められる理解と支援 発達障がい(神経発達症)的な兆候を示す児童生徒に対して、教師及び学校はどのように理解し、どのような支援を行うべきであるのかを理解する。 準備学習：1)コースパケット資料「6. 発達障害(神経発達症)の理解と対応」のうち、3～6ページを読む。 2)発達障害(神経発達症)的な兆候を示す児童生徒との関係づくりの在り方について考察する。 課題：スモールステップの原理に基づく課題の仕分けがなぜ有効と考えられるのか、その理由を小グループで話し合い、板書発表する (AL②)。 16 教育相談を適切に実施するための教師の基本的な心構え 教育相談を適切に実施できる教師に求められる心構えを、子ども理解と実態の把握のあり方及び支援を進める方向性の2つの視点から解説する。 準備学習：コースパケット資料「7. 教育相談を適切に実施するための共振っ基本的な心構え」を読む。 ：スモールステップの原理に基づく課題の仕分けがなぜ有効と考えられるのか、その理由を小グループで話し合い、板書発表する。
授業形態	コースパケット(授業で扱う内容に関する資料集)を用いた講義と演習 アクティブラーニング：①:2回、②:10回、③:0回、④:0回、⑤:2回、⑥:1回
達成目標	1. 教育相談の対象となる生徒指導上の諸課題の現状と課題を理解できる(基礎)。 2. 『生徒指導提要(改訂版)』(2022)の特徴や重点事項を説明することができる(基礎)。 3. 「「問題」行動は必要行動」という考え方を具体例を挙げて説明することができる(標準)。 4. 「問題行動」の見方を変えてみる」ことが学校における教育相談を的確に行う上で重要であることを理解できる(標準)。 5. 「不登校の直接的な原因と維持要因の違い」について説明することができる(標準)。 6. いじめや重大事態の定義の理解に基づいて、いじめの深刻化を防止するために教員や学校が取り組むべき対応を説明することができる(標準)。 7. 発達障害(神経発達症)の定義と状態像の理解に基づいて、教員や学校がどのような支援を行うべきかを説明することができる(標準)。 8. 今後関わりを持つであろう他者の特性を理解し、トラブルを未然に回避するために有益な認知や行動を仕方を考えることができる(応用)。

評価方法・フィードバック	授業に取り組む姿勢，とくにグループワーク時の積極性や自発性（40％）と課題レポートの成績（60％）で成績を評価する。個人の発表やグループの板書発表については，その都度コメントを与え，解説を行う（フィードバック）。
評価基準	評価は、以下の5種類とし，可（C）以上を合格とする 【秀（S）】：90点以上 【優（A）】：89～80点 【良（B）】：79～70点 【可（C）】：69～60点 【不可（F）】：59点以下
教科書・参考書	教科書は使用しない。コースパケット（授業で扱う内容に関する資料集）を配布する。参考書については，その都度紹介する。
履修条件	教員免許状の取得を希望する者。
履修上の注意	・授業には必ず出席すること。また，他の履修生の迷惑になるので，私語は厳に慎むこと。 ・コースパケットは毎授業持参すること。
準備学習と課題の内容	①配布資料とメモに基づいて、毎回の授業内容の復習（1.5時間）を必ず行うこと。 ②授業計画中に記載されている「準備学習」の内容（1.5時間）を必ず行うこと。
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解:40％、思考・判断:20％、関心・意欲:10％、態度:15％、技能・表現:15％
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	